極度に疲弊せるを見て藤原の悪政を憤り大江匡房に説き農村関東を研究し東北地方の騒擾の亂を平げるに武力を用ひなかつた。即ち八幡太郎が東北に向つた時藤原の公領田の農民が壓制せられて其の生活に喘へ兼ねて遂に其の地方の亂の原因となつて居たので私墾田を新に設け其の地方の農民を其の私墾田を新に設け其の地方の農民を其の私墾田に移らしめ其の貢擔を輕からしめ農民の生活安定を計つてやつた其處で農民の生活が自然良くなり八幡太郎は良い人だと農民間に崇敬まはれ遂に民神として祠るに至つた。此の東北地方の騒擾が藤原時代に亂を起したのも矢張り農民運動の一であります。農民運動は戦國時代にもあつた。戦國時代の農民運動は蓆旗を押し立て、大名、武士に反抗した大名も百姓を虐めると必ず戦爭には敗れて居た其の頃の農民はいざ鎌倉と言ふ時には武器を取り戦に参加し大名等の武士階級に反抗して居た。夫れが徳川時代になつて百姓が武器を持つ事は不穏當であると言

財團法人協調會福岡出張所